

05 静建土技第 880 号

令和 5 年 7 月 21 日

株式会社東海造成 様

静岡市長 難波 喬 司  
(建設局土木部技術政策課)



令和 5 年度 盛土材（路床材・路体材）の使用承諾について（通知）

令和 5 年 4 月 6 日立会申請の提出がありました別紙盛土材について、静岡市が定める「盛土材料取扱基準」で規定する品質規格等に適合するので通知します。

なお、盛土材料使用承諾有効期限は 1 年（通年）とし、下記有効期限とします。また、工事現場に搬入される盛土材の品質は常に安定し、かつ基準に適合するものでなければなりません。品質に変化が生じた場合や、採取場を変更する場合には速やかに土質試験を行い、改めて承諾を得るようにしてください。

記

1. 材料品目

路床材、路体材：切込砕石（0-40）

路体材：山土（0-300）

2. 有効期限

令和 5 年 7 月 27 日から令和 6 年 7 月 26 日まで

## 盛土材一覽表

静岡市技術政策課  
令和5年5月11日調査

地区 番号	会社名 土取場所在地	製品名称	粒度			塑性指数 (PI)		変状土 CBR (%)		最大 粒径 (mm)	最適含水比 (%)		設計に 用いる CBR	備考	
			路床材 4750 $\mu$ m	路床材 75 $\mu$ m	路体材 75 $\mu$ m/ 4750 $\mu$ m	路床材 路体材	路体材 路体材	平均	試験のCBR		標準偏差	自然含水比 (%)			絶対含水比 (%)
216	株式会社 東海造成 静岡市駿河区丸子赤目ヶ谷地内	切込碎石 (0-40)	32.4	5.7	17.6	NP	NP	86.0 ~ 65.7	76.3	68.0	68.0	6.6	2.199	20.0	
			-	-	25.0	-	21.9	20.3	8.3	51.2	24.3	3.6	-		
216	株式会社 東海造成 静岡市駿河区丸子赤目ヶ谷地内	山土 (0-300)	-	-	25.0	-	-	80.0 ~ 23.9	51.2	-	24.3	6.7	2.090	20.0	
			-	-	25.0	-	21.9	56.1	26.9	26.9	4.6	2.56	20.0		

## 別紙 B

## 盛土材土質試験結果調査表

会社名：株式会社 東海造

製品名称：切込砕石(0-40)

土取場所在地：静岡市駿河区丸子赤目ヶ谷地内

地区No.：216

静岡市技術政策課

令和5年5月11日調査

項目	試料	令和4年7月					令和5年7月					備考
		1	2	3	4	5	6	平均	品質 路床材	規格 路体材		
土質記号		GWS	GWS	GWS	GS-F	GS-F	—	○	○			
粒度	4750 μm	34.7	35.5	33.4	29.8	32.3	32.4	25~100				
	75 μm	4.4	4.9	4.2	6.9	7.4	5.7	0~25	*50以下			
塑性指数	LL/PL	NP/NP	NP/NP	NP/NP	NP/NP	NP/NP	—					
	PI	NP	NP	NP	NP	NP	NP	10以下	30以下			
変状土 C B R	%	79.5	86.0	84.6	69.3	72.7	76.3	20以上	5以上			試料の C B R : 68.0 設計に用いる C B R : 20.0
最大粒径	mm	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	100以下	300以下			
自然含水比	%	3.5	3.7	3.4	3.7	4.0	3.6					
最適含水比	%	7.3	8.1	6.9	5.6	6.3	6.6					
最大乾燥密度 (ρ dmax)	g/cm <sup>3</sup>	2.182	2.191	2.176	2.215	2.219	2.199					
ρ dmax × 0.95	"	2.073	2.081	2.067	2.104	2.108	2.089					
ρ dmax × 0.90	"	1.964	1.972	1.958	1.994	1.997	1.979					
粗骨材の絶対乾密度	"	—	—	—	—	—	—					E法にて実施

## 説明

1. 土質試験結果をこの調査表に整理して調査を行う。

2. \*50以下とは4750 μmフルイ通過試料に占める75 μmフルイ通過分の割合(%)

3. 変状土 C B R のデータ調査

4. データの範囲：最大値(MAX)～最小値(MIN)

5. 較差：MAX～MIN

6. 平均： $X = \sum X_i / N$ 7. 標準偏差： $\sqrt{V} = \sqrt{(\sum (X_i - X)^2) / (N - 1)}$ 8. 試料の C B R： $X - \sqrt{V}$ 

路体材：5以下は不適

路床材：20以下の場合路体材としての使用のみ可能

4. 設計に用いる C B R

4. 路床材については上限20.0%とする

5. 路体材については、試料の C B R 値が20%以下の場合はその値を採用し  
20%以上の場合は20.0%とする